



静止気象衛星ひまわり8号データ品質評価の協力者の募集

気象庁 気象衛星センター

気象庁では、2014年10月に静止気象衛星「ひまわり8号」を打ち上げ、2015年夏頃から運用を開始することを計画しています。この衛星では、現在のひまわり6号・7号（運輸多目的衛星シリーズ）に比べて、観測バンド数や分解能などが大幅に向上します。また、フルディスクを10分間隔で観測することに加えて、日本周辺を2分半間隔で常時観測するなど、静止衛星のメリットを最大限に生かした運用を行う予定です。なお、ひまわり8号の詳細については、気象衛星センターのホームページ <http://www.data.jma.go.jp/mscweb/ja/himawari89/index.html> を参照ください。

当庁では、ひまわり8号の能力を十分に業務に生かすべく、プログラムの新規開発や既存プログラムの改良を進めるとともに、2006年度から「静止衛星データ利用技術懇談会」（座長：中島映至東京大学大気海洋研究所教授）を開催し、大学等の研究コミュニティの専門家から、当庁のプログラム開発等について貴重なご意見をいただくなど、オールジャパンで次期ひまわりデータの最大限の利用促進を図る取り組みを進めています。

この取り組みの一環として、ひまわり8号の運用開始に先立って試験運用期間中の「評価用データ」を用いた標記データの品質評価にご協力いただける気象庁外の研究者の方を募集します。今回の募集は、「天気」Vol.61, No.2に掲載した同名の募集の追加にあたるものであり、前回の募集で協力者に選定された方については、再び応募される必要はありません。

【応募条件】

- ・気象庁が実施するひまわり8号データの品質の運用開始前の調整等の参考とするために、2015年3月までに何らかの形で中間的なフィードバックを気象庁に提出することが期待される。報告の形式は問わない。
- ・ひまわり8号の試験運用期間終了後概ね1年以内に気象庁に品質評価報告を提出すること。報告の形式は問わない。ただし、本協力において得られた成果を査読付論文等で発表した場合は、その旨を連絡することで品質評価報告の提出に代えることができる。
- ・気象庁が提供する「評価用データ」及び関連情報を第三者に提供しないこと。

- ・「評価用データ」の利用案内等の情報提供は日本語のみで行うので、日本語を理解できること。

【評価協力者の選考】

- ・国内の大学、研究機関に属する方（外国籍の方も可）で、上記の応募条件をご了解いただける方であれば、前述の「静止衛星データ利用技術懇談会」での承認の後、原則としてすべての応募者に協力者をお願いする予定です。

【応募先と応募受付期間】

- ・応募は、応募フォームに必要事項を明記の上、metsat[at]met.kishou.go.jp（[at]は@）宛に「ひまわりデータ評価希望」の件名でメールを送付願います（問い合わせ先も同じ）。
- ・応募フォームについては、気象衛星センターホームページをご覧ください。（http://www.data.jma.go.jp/mscweb/ja/himawari89/application_form）
- ・応募受付期間は、2014年10月6日（月）から2015年1月16日（金）まで。

【留意いただきたい事項】

- ・協力者は、「評価用データ」から各種物理量（雲の光学的厚さ、地表面アルベド、海面水温等）などを各自のアルゴリズムで算出し、その精度検証結果等を自由に発表することができます。
- ・提供する「評価用データ」は、実際に運用開始後に配信する「ひまわり標準データ」の形式で、ひまわり8号が運用を開始するまでの試験運用期間中に観測されたものの一部です。
- ・「評価用データ」は、試験結果等に基づき、放射輝度の較正及び画像の位置合わせのための幾何学的補正の方法を途中で変更する場合があります。その場合は、変更に係る情報は提供しますが、「評価用データ」自体の再処理・提供は実施しません。
- ・「評価用データ」の提供開始時期は、衛星の打ち上げ後3ヶ月以内を目標にしています。また、提供手段については検討中です。詳細については協力者の方々に後日連絡します。
- ・本協力の成果の概要は「静止衛星データ利用技術懇談会」で報告され、情報共有されます。
- ・気象庁は、庁内での現業利用を想定したプログラムの共同開発等のため、本協力終了後に、ご協力いただいた研究者との間で、発展的に更なる連携のお願いをさせていただく場合があります。